



1999.3.5  
第108号

編集・発行  
福島県教育庁  
会津教育事務所  
遠藤久夫  
編集協力  
沼会  
高橋  
二麻  
耶津  
北会  
津地  
教委  
小・中  
学  
校  
長

# 西から太陽が！



福島県教育庁会津教育事務所 業務次長

長谷川 昭江

成田を午後一時前離陸した飛行機が、見渡す限り雪原のシベリアにさしかかった頃から夕焼けとなり、やがて、地上の車がライトをつけて走るほど暗くなってきたと思ったら再び夕焼けである。その状態が二時間以上続いたのだろうか。一段と明るさを増した次の瞬間、真っ赤な太陽が西の空から顔を出したのだ。あまりの感動と衝撃にしばらくは窓に釘付けの状態だった。

これは、昨年十一月十六日から、文部省教員海外派遣団の一員として、ポルトガルを中心に派遣されていた第一日目のことである。ポルトガルでは、子どもの目

の輝き、来客へのていねいな接待、時間の使い方、ラテン系民族ならではの明るさ等々、感動と驚きの連続であったが、冒頭のことは初日だっただけに、滞在十六日の間、ずっと脳裏から離れなかった。「太陽が西から昇る」ことは、あり得ないことのためとえに使ってきいたからである。「絶対に正しい」とか、「絶対に間違っている」というのは、ある一定の条件下でしか通用しないことを思い知らされた。事実、最近のバイオ技術の進歩はめざましく、恐竜の卵の化石から恐竜を誕生させたり、子どもが親を産んだりすることも近い将来可能になるといふ学者の証言さえある。「白濁は一見に如かず。」このたびの貴重な体験を今後の教育の在り方を問う中で、ぜひ、参考にしていきたいと念じている。



西から昇る太陽に映える翼

## 受賞おめでとうございます

(敬称省略)

- 文部大臣表彰
  - ・教育委員会制度五十周年記念地方教育行政功労者  
元会津若松市教育委員会委員長 大須賀隆輔
  - ・塩川町教育委員会委員長 中川 三郎
  - ・西会津町教育委員会教育長 二瓶 義喜
  - ・小学校教育功労者  
元会津若松市立鶴城小学校校長 平田 二郎
  - 元会津若松市立鶴城小学校校長 木幡 春夫
  - 元会津若松市立鶴城小学校校長 讃岐 幸一
  - ・地域文化功労者(文化財保護功労) 佐原 義春
  - ・優良公民館 湯川村公民館
  - ・社会体育優良団体 会津若松市体育協会
  - ・学校安全関係優良団体 喜多方市立第一幼稚園
  - ・学校給食優良学校等 会津若松市立松長小学校
  - ・学校基本調査 会津坂下町立坂下小学校
- 県教育委員会表彰
  - ・文化功労賞 会津若松市 阿部 隆一
  - ・地方教育行政功労者 河東町教育委員会教育長 加藤 孝雄
  - ・学校教育功労者 会津若松市立鶴城小学校校長 新園 正明
  - 会津若松市立城北小学校校長 古川 登
- 第四十二回よい歯の学校コンクール
  - ・特別優秀校 喜多方市立第一小学校
  - ・優 秀 校 九 校
- 学校給食会表彰
  - ・個人表彰 会津若松市大戸地区学校給食センター 主任 大竹 昭子
  - ・主任 大竹 昭子
- 第四十九回学校関係緑化コンクール
  - ・福島県緑化センター理事長賞 山都町立山都第三小学校
  - ・福島県林業協会会長賞 会津若松市立大戸小学校
  - ・福島県教育委員会教育長賞 柳津町立西山小学校
  - ・福島県林業協会会長賞 会津若松市立大戸小学校
  - ・福島県緑化センター理事長賞 山都町立山都第三小学校
- 日本医師会会長表彰
  - ・東山小学校 主任 栄養技師 野中 恵子
- ・保健体育功労者 会津若松市立城北小学校 校長 坂井 正喜
- ・永年勤続教職員 清原 頼子
- ・福島県教職員研究論文特選 二十五名
- ・会津若松市立行仁小学校 学校安全優良校 会津若松市立原小学校
- ・社会教育関係功績顕著な団体・施設 猪苗代町婦人連絡協議会
- ・会津若松市立城西小学校父母と教師の会
- ・芸術・文化財保護功労者 前会津若松市文化財保護審議会会長 坂井 正喜
- ・会津若松市立行仁小学校校長 山内 徳次
- ・会津若松市立第四中学校校長 笹川 征喜
- ・社会教育関係功績顕著な団体・施設 猪苗代町婦人連絡協議会
- ・会津若松市立城西小学校父母と教師の会
- ・芸術・文化財保護功労者 前会津若松市文化財保護審議会会長 坂井 正喜

## 基礎学力の向上

# 豊かな学習環境の構成

この一年間、各学校では、児童生徒の基礎学力を向上させるため、授業の充実を図るとともに授業を支える日常指導にも目を向け、実態に応じた創意工夫あふれる実践に取り組んできました。

基礎学力の向上には、豊かで多様な学習環境の中で、真に「子どもが学習の主体者」となるような授業の展開が望まれます。

そこで、今回は、子どもたちが自ら働きかけていく「学習環境」の構成を工夫し、学習意欲を喚起して豊かな学習活動の創造に取り組んだ、塩川町立堂島小学校の実践を紹介します。

本校では、「算数科における基礎学力の向上を図る指導」を研究主題とし、主に次の四点を研究の柱として学習指導の改善に取り組んできました。

- ① 内発的な学習意欲を高めるための課題提示の工夫
- ② 個のよさを生かした自力解決と練り上げによる課題解決のさせ方の工夫
- ③ 学習を振り返る時間と練習時間の確保の工夫
- ④ 日常指導の工夫

これらのうち、特に日常指導の工夫として「算数コーナー」・「算数資料コーナー」を設置し、その利用の仕方の充実を図ってきている。



＜算数コーナー＞

「算数コーナー」は、児童が単に休み時間や放課後に見るだけのものから、「もっと日々の授業や学習に積極的に活用できるもの」へと発展させ、気軽にしかも効果的に活用できるようにするための工夫をしてきた。

具体的には、前時までの学習経過や結果を模造紙に記録・掲示して、学習中はいつでも参考にしてできるようにした。つまり、「算数コーナー」は、習得した内容を本時の課題解決にいつでも活用できるようにする形をとった。

「算数資料コーナー」は、特に操作活動が重視される低・中学年に設置し、おはじき、カード、色板、サイコロ、模型時計等の学習資料を整備して収納ケースに入れておいた。児童は、授業中に限らず、休み時間にも時刻を読み合ったりするなどして、学習したことを活用し、算数を身近なものとしてとら

えている様子が見られるようになった。

以上のような学習環境構成の工夫によって、児童の学習に対するかかわり方が徐々に



＜算数資料コーナー＞

変化してきている。授業では、前時までの学習内容を復習する際に「算数コーナー」を利用したり、新たな課題に対する際に、前時の発表で「○○君の法則」と名付けられた考え方を積極的に活用したりする習慣が付いてきている。基礎学力を向上させる上で大きな効果が認められた学習環境となった。

さらに、習得した基礎・基本を積極的に活用できる児童参加型の学習環境を構成することと、練習問題に取り組む場とシステムを充実させていくことが今後の課題である。

児童・教職員がアイデアを出し合い、工夫と改善を重ねて基礎学力向上が一層図れるよう努力していきたい。

(塩川町立堂島小学校)

## 音色を聴きわける

学校教育相談員 山本 佑一郎

## 心の教育

—情感と感動を大切に—

平成七年、いじめ対策事業の一つとして設置されたダイヤルSOSも、今、四年目を終わろうとしている。その間、「ハート・ウォーム・ブラン」のひとつの事業として位置付けられたり、開設時間を変更し、フリーダイヤル化とともに、学校アドバイザーが学校教育相談員と名称が変更され、三人体制をとるなど、さまざまな試みがなされてきた。

これらは、教師や児童生徒、保護者のみならず、教育に携わるすべての人たち、さらには、一般市民のニーズにこたえるばかりでなく、あらゆる問題への対応が求められていることを示唆するものと思われる。それだけに、今年も教育以外の相談が多かった年でもあった。複雑な社会、不安定な社会では、教育問題ともども、この種の問題が多くなることも予想され、ダイヤルSOSの真価が問われているとも考えられる。

特に、教育問題に関しては、利用者も年々増加しており、学校において、または、児童生徒や保護者の間にダイヤルSOSの存在が意識されてきたことは、何にもまして喜ばしいことである。しかし、電話なり、面接なり、相談を受けて次のような問題が浮き彫りにされてきたと思うがどうであろうか。

一、不登校にしろ、いじめ、非行問題にしろ、学校や教師に対する不平・不満がいかに多いかである。「何もしてくれない」「誠意がない」「対応が遅い」などという苦言・苦情である。これらは問題をより複雑にし、解決を困難にしているのは言うまでもなく、ひいては学校や教師への不信感を抱かせる原因にもなっていると思われる。

二、教師という狭い視界の中での見方や考え方、捉え方をしていないかということである。教師という感覚で、教師の年齢で、教師の中にある計器で物事を測る傾向があるように思えるのだからどうであろうか。

以上、今年の反省点を述べてみたが、生徒指導における「心の教育」とは、児童生徒の情感に訴え、感動を与えることと思われる。心の鐘を打ち鳴らし、その音色を聴きわけることこそ、教師として、今求められている重要な課題ではないだろうか。

# 私の実践

## 算数科において、基礎的・基本的事項の 定着を図るための授業の工夫

会津若松市立鶴城小学校 渡辺 秀一

第三学年算数科「重さ」における実践

児童の実態調査で、基礎的な内容が十分身に付いていないことが分かり、以下のような手立てで基礎・基本の定着を図った。

- 一 基礎・基本を明確にした学習計画の作成
  - ・単元を構成する基礎・基本を明確に位置付け、量感を実感させるために操作活動を積極的に取り入れた計画を作成する。
- 二 具体物を使った導入の工夫

- ・のり、はさみ、定規など身近な文房具を用い、その重さを教材にし、比較させることと興味を高める。
- 三 操作活動を取り入れた確かな工夫
  - ・簡易天秤を使い、「視覚でとらえた重さ」→「手で持った重さ」→「実測」の手順で一人一人に調べさせることで、豊かな量感を定着させる。

児童は、大変興味を示し、各グループごとに試行錯誤しながら調べていった。身近な素材



＜量感をもたせるための自作天秤の活用＞

を選び、視覚量、感覚量、実量を関連させたことで、実

## 互いに心を寄せ合って

### 管内の学社連携の現状から

#### 会津教育事務所生涯学習課

子どもたちの健全な成長のために、学校教育と社会教育が連携することの重要性はだれもが認める

ところで、管内の社会教育事業の中にも、学校教育との連携を目指した内容が増えてきている。一方、学校教育の現場でも、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせるため、社会教育との連携を模索する取り組みが見られるが、新学習指導要領の発表を契機に、その必

## 生涯学習だより

要領の発表を契機に、その必

要性はますます強まること予想される。

管内の今年度の社会教育事業の中では、学社連携を意図したものとして、地域のよさを学ぶ「ふるさと学習」、学校及び公民館職員、地域の人々で実行委員会を組織して実施する「野外活動体験」や「異年齢交流体験」等の青少年教育の実践が増えている。

「やったことのないことはできない」という特質を持つ子どもたちに、これらの事業を通して、生活の知恵を学ばせたり、生きる自信を身に付けさせたり、同時にいろいろな人

との関わりの中から生涯学習の基礎となる力を身に付けさせたりすることが期待されている。

さらに、学社連携の新しい動きとして、学校に美術品を展示する「出前美術館」や「学校外活動支援ボランティア証明書」を発行し参加者の在籍校に活動の様子を知らせたり、その後の進路に役立てようとしたりする先進的な試みも見られるようになってきた。

このような連携を進めるためには、何よりも身近なところから、できる範囲で取り組むことを基本にし、学校教育と社会教育が一層心を寄せ合っており、積極的に働きかけることにより、互いの課題を共有したり、英知とノウハウを提供し合ったりすることが今まで以上に求められている。

## 雷電山法用寺

### 会津高田町教育委員会

活との結びつきが分かり、「重さ」についてより深い理解を促すことができた。事後の練習でも誤答の児童がほとんど見られず、また、まったく見当はずれの誤答をした子も見られなかった。

た。これは、上記の学習が、基礎的・基本的事項の定着に有効に働いたためと考えられる。今後、児童の実態に応じた多様な指導法について研修を深めていきたい。

会津高田町大字雀林地内に雷電山法用寺がある。この寺は河沼郡惠隆寺に次ぐ会津の最古刹で、その創建は養老四年(西暦七百二十年)と伝えられている。寺伝によると、徳道上人が堂平の地に建立したが、大同二年(西暦八百七年)の火災により本寺や堂塔及び仏像は焼失した。その後、現地の山麓を拓いて再建された。惠日寺が建立されるまでは、多くの末寺と飯豊山を司掌し、かなりの勢力を誇っていた。

現在は、会津盆地が一望できる地に本寺とその堂塔が、一列に並んで建っている。ここには、金剛力士像、厨子及び仏壇、会津唯一の三重の塔、会津五板の一つである虎の尾板など、国や県の指定する文化財が数多くあり、多くの人たちが訪れている。

## 地域に学ぶ

この地では毎年一月七日に「蛇の御年始」という行事があり、百年以上前から受け継がれている。この日は朝から小学校の児童が法用寺に集ま

り、仁王門に飾ってある菓の蛇を降ろし、これを担いで村中の家々を「ウオー」というときの声をあげ、「蛇が御年始にきました」と告げ回り、蛇にお金を供えさせる。子どもが村中を回っている間に大人が集まり、あらかじめ買集めた菓で新たに蛇体をつくり仁王門に飾る。村中を回ってきた古い蛇体は仁王門のそばで燃やす。蛇の御年始が終わると、村の人々は新しい菓の蛇に詣でる。

昔、用水に不足していた雀林では、仁王門の西山麓に五龍王(水の神)を祀った龍蔵権現があったので、この龍になぞらえて菓で蛇をつくり、門に飾って用水の豊かさを祈願しこれをお参りするようになった。



灌漑用水不足に苦労した歴史を表面に表している。正月行事である。永く保存したいものである。

# 私の抱負

我ら片門の子だ、希望の雲に伸びよう

金津坂下町立片門小学校  
校長 山口善巳



「○△の時間  
楽しみだよなあ」  
とはずんだ会話をしながら通る  
子等。担任の先生がまた何か仕掛けたのであろう。子どもを変えるには新鮮な驚きが必要だ。未知のものに出会ったときの子どもの表情の輝き、新しい自分の力を発見したときの感動体験だ。そこには輝く目、はずむ心を育てる小学校教員の創意と神秘さや不思議さに目をみはる幼稚園児と感動を分かち合う保育者の視線がある。幼稚園から小学校の八年間を見通し、瞬間でもよい、私も子どもに火をつけてみたい。

デザイナーとして

北地原村立第一中学校  
教諭 高橋弘悦



先日読んだコラムによれば、自らに備わった感性を表現するのが「アーティスト」、利用者のニーズに合わせて創造するのが「デザイナー」であるとか。

この意味からすれば、教師はアーティストではなく、生徒の自己実現というニーズに応えるデザイナーであろうし、教頭は、学校の教育諸条件を整備を通じて先生方の教育活動を支援するデザイナーといえることができて、動きの激しい昨今の教育界においては今後ますますそのデザイン力が重視されてくると思われる。

初心の新鮮な感覚を失うことなく、校長先生のご指導をいただきたい、時代を見据えたデザインをしてみたいと考えています。

この一年とこれから

穂苗代町立穂苗代小学校  
教諭 小山由香



四月一日に赴任し、もうすぐ一年がたとうとしています。

「早い」というあれから、子どもと共に歩んだ日々。喜び、悩み、感動！。これからも、迷うことや悩むことがあるでしょう。しかし、子どもたちと共に悩み、成長していきたいと思えます。そして、心と心のふれ合いを大切にできる自分になりたいと考えています。

## 心に残る人々

## 教え子から学ぶ

北会津村教育委員会教育長 中山雄助



珍客の来校は嬉しいことだ。

四十二年前、私が教員駆け出し時代の教え子たちである。昭和三十年代の初めといえはまだまだ、生活は苦しかった。しかし、子どもたちは不自由不自由に耐えながらも、不満一つ口に出すものはいない。これが当たり前だと思っていた。地域の方々の温かな心に支え

られ、毎日楽しく生活を送っていたことが、今もってはっきり思い出される。彼らは一昨年、私の退職を知り、那須で同級会を開いてくれた。訪れた四人はその仲間で、山あいの自然を生かし農業に従事している。実に、たくましく、誇らしげに、力強く語ってくれた。有機米を作り出し、関西方

面に送り出し喜ばれていること。地域を生かしたいだけ栽培、えさに竹炭を混ぜ、低コレステロールの健康卵を考案出した「竹鶏物語」。

貧しさの中から本物の人の心、人の道を教えられた。今や、いっどこで学んだかの時代ではない。何をどれだけ学んだかである。

## 工芸



## ピアノ発表会

会津高田町立第二中学校  
一年 中嶋清貴

### 〈指導の工夫〉

「密木」という材料を有効に使って、楽しく使える、世界に一つしかない個性的な工芸品を作ろう」という目標で指導しました。

清貴君は、自分がピアノを演奏している将来の姿をイメージしてテーマを決めました。さらに蝶番、竹ひごなどで工夫し、音楽が聞こえてくるような、美しく、繊細で個性的な作品を作りました。

(指導者 鈴木 智子)

## 絵



## お話の絵「虹になった竜」

会津若松市立坂西小学校  
五年 坂内良太

## 私の作品

### 〈指導の工夫〉

お話のイメージが、どんどんふくらむように、そして、表したい世界を豊かに表現できるように、竜の絵を見せたり、多様な表現方法や材料を提示したりした。

良太君は、画面上にぱいに、のびのびと竜を描き、若者が腰をぬかすほどの大きさと動きのある竜を表現した。水の色の濃淡や筆づかいの巧みさ、青白く輝く月あかりは、見る人に感動を与えられられる。

(指導者 目黒 佳子)